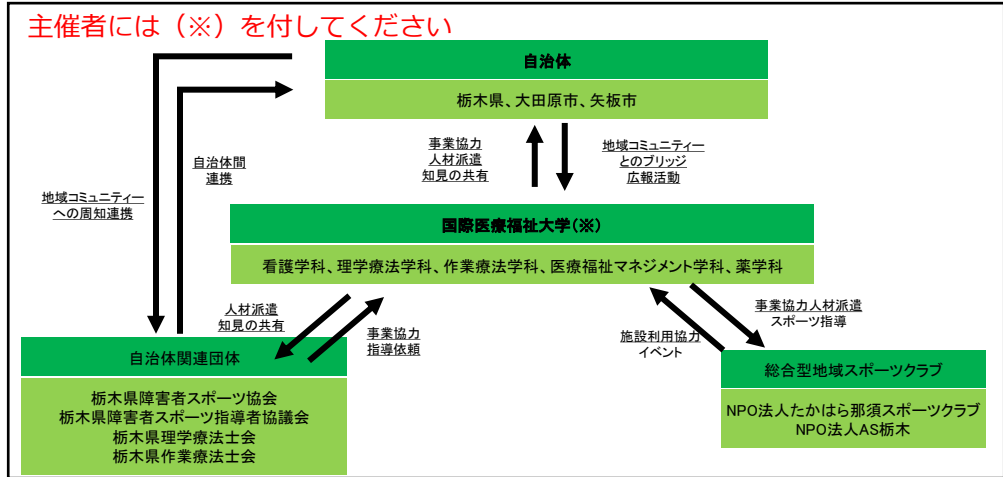


実施計画名	国際医療福祉大学によるスポーツでつながるとちぎプロジェクト ～地域の健康と交流を育むアクティブコミュニティ創出～
事業概要	本事業は国際医療福祉大学が保有するスポーツ資源（人材、施設、知識）を活用し、栃木県地域住民の健康と交流を促進することを目的としたプロジェクトである。大学内各学科の専門知識を活用し、多様なスポーツプログラムを提供することで、住民の運動習慣の形成や世代間交流を促進する。また、地域全体で参加できるスポーツイベントやフェスティバルを開催し、住民同士の絆を強化する。この取り組みは、住民の健康維持と地域活性化を図り、持続可能な地域振興モデルの構築を目指している。

■対象地域が抱える課題

対象地域	栃木県県北地域
1.スポーツ活動実施率低下と健康リスク	COVID-19感染症蔓延による県民のスポーツ実施率低下は、住民の健康維持に大きな課題（働き世代:48%,高齢者:57%,障害者:11%）。県民の19%がメタボリックシンドロームに該当。
2.スポーツ施設の遠隔地化と世代間交流の疎遠	栃木県中心部以外の地域住民がスポーツ施設にアクセス困難。特に郊外や山間部ではスポーツ参加機会が制限され孤立感や社会的孤立が問題化。
3.スポーツ指導者の不足と適切な運動指導を受ける環境の制限	体力・運動能力に応じた運動を指導できる専門知識を持った人材が不足。住民が適切な運動指導を受ける機会が限られている。

■事業の実施体制図（学内体制に留まらず、地域の組織・団体との連携体制も示すこと）



■具体的なプログラム・活用する大学スポーツ資源

- ①地域スポーツ教室の開催:各地域で定期的にスポーツ教室を開催し、ヨガやダンス フィットネスなど多様な運動プログラムを提供する。
(人材)教員や学生がスポーツ指導を担当。専門知識を持つ指導者を配置する。
(施設)大学内スポーツ施設を活用する。
(知識)大学が有する運動生理学/スポーツ医学の知識を基に、効果的なプログラムを設計する。
- ②デジタル技術を活用したスポーツプログラム:運動習慣を形成するためのワーク ショップやオンラインスポーツクラスを実施し自宅で運動を継続できる環境を整備する。
(人材)デジタル技術に精通した教員や学生が、オンラインプラットフォームの構築と運営をサポート
(施設)大学内の配信室を利用して、オンラインクラスやワークショップの撮影・配信を行う。
- ③スポーツフェスティバルと地域スポーツカフェ:世代間交流を促進するイベントやトークイ ベントを開催し、地域住民の交流を促進する。
(人材)イベント企画に長けた教員や学生が、フェスティバルやトークイベントの運営を担当。
(知識)スポーツ心理学やコミュニティスポーツの理論を基に、世代間交流促進プログラムを企画。
- ④スポーツ指導者の育成:スポーツ指導者研修プログラムを実施し、新規指導者を育成する。
(人材)指導者育成に長けた教員が研修プログラムを開発。指導者の育成を学生がサポートする。
(施設)大学の講義室やトレーニング施設を利用して、理論講義や実技指導を実施する。
(知識)スポーツ指導理論やトレーニング法に関する知識を提供し、新規指導者育成を支援する。

■期待される事業結果・効果

- ①スポーツ活動実施者増加（KPI:新たなスポーツ活動の開始者200名増）
地域住民のスポーツ活動への参加率が持続的に向上。新規参加者の継続的な増加。
- ②運動習慣の定着（KPI:参加者のうち50%が週1回以上の運動習慣を継続）
生活習慣病予防や健康寿命の延伸を図り、地域全体の健康レベル向上。
- ③世代間交流イベント参加者数（KPI:参加者300名と2割の異世代間交流経験）
地域住民の世代間交流が活発化し、地域の絆が強化される。
- ④スポーツ指導者の育成（KPI:新規スポーツ指導者30名の育成）
住民が適切な運動指導を受ける機会を創出する。